

中期目標の達成状況に関する評価結果

(4年目終了時評価)

鳥取大学

令和3年6月

大学改革支援・学位授与機構

目 次

法人の特徴	1
(法人の達成状況報告書から転載)	
評価結果	
《概要》	5
《本文》	6
《判定結果一覧表》	23

法人の特徴

大学の基本的な目標（中期目標前文）

鳥取大学は、創立以来今日まで、地域の人々の幸福のために、実学を中心に地域の発展に取り組んできた。砂丘農業の取組から発展して世界に展開する乾燥地研究に象徴されるように、地域のための取組の成果を活かして世界に貢献してきた。その根底にあるものは、地域に寄り添いながら世界を視野に入れ、つねに厳しい条件下におかれている人々に対する思いやりの心をもつ姿勢である。

このような伝統を受け継いで、理論の修得と実践により問題解決と知的創造を行う「知と実践の融合」を基本の理念として、全学を上げた学際的取組により教育、研究、社会貢献を進め、活力をもった持続的な地域の創生につとめるとともに、環境科学、ライフサイエンス等の特色ある分野において研究拠点の形成を進め、持続的な世界の構築に貢献する大学を目指していく。そのために次の3つの目標を掲げる。

1. 社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成
2. 地球規模及び社会的課題の解決に向けた先端的研究の推進
3. 国際・地域社会への貢献及び地域との融合

これらの目標の達成に向けて、基本理念である「知と実践の融合」のもとに、次のようなビジョンをもって活動を行う。

【教育】

時代に必要な現代的教養と人間力を根底におく教育により、地域社会の課題解決や国際社会の理解を志向し、社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成に取り組む。

【研究】

地域から世界に広がる研究フィールドにおいて、基礎研究のみならず、社会的課題の解決へ向けた実践研究を行う。責任ある研究活動を行うとともに、そこから得た知見を学術知にとどめることなく、知的資源として社会へ還元する。

【社会貢献】

地域と一体となって教育研究を推進するとともに、広く社会に役立つ研究成果を創出し、地域のみならず国際社会に還元する。大学の資源を活用して地域の活性化、地域医療の充実に貢献する。

本学は、地域学部、医学部、工学部及び農学部等で構成されており、執行部と各学部との意思疎通や学部間の共通認識が図りやすく、状況に応じて迅速に対応できるという特色を活かし、学長のリーダーシップの下に、学内の資源を有効に活用し、効率的・機動的な大学運営を推進して目標の達成に努める。

1. 沿革及び教育組織の構成

本学は、昭和24年に鳥取師範学校、鳥取農林専門学校、米子医科大学等の旧制諸学校を母体とした新制大学として発足した。昭和40年には工学部が創設された。現在は、鳥取キャンパスに地域学、工学及び農学の3学部並びに持続性社会創生科学研究科、工学研究科、連合農学研究科及び共同獣医学研究科の4研究科、米子キャンパスに医学部及び医学系研究科を擁する総合大学として、地域から世界に貢献する活動を展開している。また、関連附属施設は、以下のとおりである。

令和元年5月1日において、学生数は6,195名（学部生5,172名、大学院生1,023名）、教員数は823名（うち教諭77名）及び職員数は1,509名である。

関連附属施設

- 共同利用・共同研究拠点： 乾燥地研究センター
- 国際乾燥地研究教育機構
- 教育支援・国際交流推進機構：
入学センター、教育センター、学生支援センター、教員養成センター、キャリアセンター、国際交流センター
- 研究推進機構
- 地域価値創造研究教育機構
- 学内共同教育研究施設：
総合メディア基盤センター、染色体工学研究センター
- 附属学校部： 附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校
- 保健管理センター
- 附属図書館： 中央図書館（鳥取キャンパス）、医学図書館（米子キャンパス）

2. 本学の目指すところ

鳥取大学憲章に掲げる「知と実践の融合」の基本理念のもと、3つの教育研究の目標及びグランドデザインを定めている。これら全体目標の達成に向けて、各領域における第3期中期目標及び3つの戦略、「戦略①：乾燥地科学分野における国際的研究教育拠点の強化」、「戦略②：医工農連携による異分野研究プロジェクトの推進」、「戦略③：人口希薄化地域における地域創生を目指した実践型教育研究の新展開」を設定し、学長のリーダーシップの下、その実現に向けて中期計画及び年度計画に従い活動を展開している。

3. 教育・研究

本学の理念及び教育グランドデザインに基づき、「現代的教養」と「人間力の養成」に力を入れ、人口減少や高齢化、産業空洞化等の課題を抱える地元地域や海外の発展途上地域の課題解決に取り組む、社会貢献や研究にもつながる実践的な教育を進めている。平成26年度には大学機関別認証評価を受け、「大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている」との評価を受けた。

機能強化経費を活用して、「乾燥地科学分野における国際的研究教育拠点の強化」、「医工農連携による異分野研究プロジェクトの推進」、「人口希薄化地域における地域創生を目指した実践型教育研究の新展開」の3つの戦略を重点的に支援し、乾燥地研究センター、染色体工学研究センター、工学部附属グリーン・サステイナブル・ケミストリー研究センター、農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター等において特色ある先進的研究を推進するとともに、乾燥地域と人口減少や過疎化の進む地域を対象とした持続的な世界の構築に向けた取組を推進している。

4. 社会との連携・国際交流

地域価値創造研究教育機構が中心となって、教員が自治体と連携して進める地域貢献支援事業、自治体との間の包括連携協定、自治体職員の大学への派遣、地元企業200社以上が参加し、本学との間での情報交換や萌芽的研究に対する支援を行う鳥取大学振興協力会の活動等を通し、地元の自治体や企業との密な連携体制を構築している。また、地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）により地域を志向した教育・研究を推進するとともに、地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（大学COC+事業）により地方創生に向けて活躍できる人材の育成に取り組んでいる。

「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」事業終了後の全学的なグローバル人材育成の教育体制として、大学教育支援機構と国際交流センターを統合した「教育支援・国際交流推進機構」を平成29年4月に設置し、全学的なグローバル教育の推進に取り組んでいる。また、国際乾燥地研究教育機構の国際共同研究の枠組みや本学の海外教育研究拠点を活用し、メキシコ海外実践教育プログラム、鳥取大学インターナショナル・トレーニング・プログラム（TU-ITP）等の多様な実践教育を教育支援・国際交流推進機構、国際乾燥地研究教育機構、各

学部・研究科等が連携して企画及び実施し、必要に応じてプログラムの改善に取り組むとともに、海外派遣プログラムや語学レベルを体系化した「鳥取大学 Global Gateway プログラム」の実施、海外安全教育等による危機管理対応等に取り組んでいる。

【教育グランドデザイン】

鳥取大学は、基本理念「知と実践の融合」のもと、その時代に必要な現代的教養と人間力を根底におく教育により、地域社会の課題解決や国際社会の理解を志向し、社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成に取り組めます。

本学が掲げる「現代的教養」とは以下の通りです。

- (1) 文化、社会、自然に関する幅広い知識
- (2) 特定の専門分野に関する理解
- (3) 論理的な課題探求と解決力
- (4) 創造性に富む思考力

本学が掲げる「人間力」とは以下の通りです。

- (1) 自律性にもとづく実行力
- (2) 多様な環境下での協働力
- (3) 高い倫理観と市民としての社会性

【研究グランドデザイン】

鳥取大学は、基本理念「知と実践の融合」のもと、地域から世界に広がる研究フィールドにおいて、基礎研究のみならず、社会的課題の解決へ向けた実践研究を行います。責任ある研究活動を行うとともに、そこから得た知見を学術知にとどめることなく、知的資源として社会へ還元します。

- (1) 研究の多様性と学際性を尊重し、学術の総合的発展を目指します。
- (2) グローバルな視点を持ちつつ、地域のニーズに応える研究を行います。
- (3) 本学の強み・特色となる研究を推進し、国際的に存在感のある研究拠点形成を目指します。
- (4) 次世代を担う優れた若手研究者を育成します。
- (5) 新産業創出を推進・支援し、地域の活性化に貢献します。

【社会貢献グランドデザイン】

鳥取大学は、基本理念「知と実践の融合」のもと、地域と一体となって教育研究を推進するとともに、広く社会に役立つ研究成果を創出し、地域のみならず国際社会に還元します。大学の資源を活用して地域の活性化、地域医療の充実に貢献します。

- (1) 実践力のある人材育成を通じて、自治体・地域住民と連携した地域創生を行います。
- (2) 地域と一体となって力を発揮する産学地域連携を推進します。
- (3) 地域の人々と学生・教職員が交流する開かれた大学を目指します。
- (4) 学生・教職員の国際交流及びタフで実践力のあるグローバル人材の養成を推進するとともに、多様な文化を受け入れ共生するキャンパスをつくり、地域のグローバル化に貢献します。
- (5) 附属病院は、経営の一層の効率化により安定的な経営基盤を確立し、地域の中核医療機関として信頼される安全で質の高い医療を提供するとともに、将来を担う高度な医療人の養成と、先進医療の研究開発を推進します。
- (6) 附属学校は、関係機関と一体となって教育に関する研究を進め、その成果を地域教育に還元し、その発展に貢献します。

[個性の伸長に向けた取組 (★)]

- フィールドワーク、ヒューマンコミュニケーション、ものづくり実践、海外フィールド演習等の各学部の特徴ある教育を中心として、学生が自ら学ぶ実践教育に取り組む。(関連する中期計画 1-1-2-1)
- 地域創造、臨床研究、過疎地域、ナシ新品種の育成、きのこ資源の利活用、乾燥地農学等の各研究科の特徴ある研究に基づき、理論と実践を融合した教育に取り組む。(関連する中期計画 1-1-3-1)
- 地方自治体、地元企業等と連携した共同研究(地域志向教育研究)等により、地域の人口減少・少子高齢化等に対する課題を抽出し、課題解決策や課題解決支援手法の開発を行う。(関連する中期計画 3-1-1-2)
- 産学協同による学生や社会人の人材育成として、過疎・高齢化等の課題抽出過程から地域住民の実質的な参画を促す住民参加型地域課題研究に取り組む。(関連する中期計画 3-1-2-2)
- 外国人学生に対して地域の多様な課題をテーマとした実践活動及び地域と共に学ぶ教育プログラムを実施するとともに、地域住民に対して語学教育、異文化理解教育及び海外安全教育を行う。(関連する中期計画 4-1-1-3)
- 国際乾燥地研究教育機構の国際共同研究の枠組みや本学の海外教育研究拠点を活用し、メキシコ海外実践教育プログラム、鳥取大学インターナショナル・トレーニング・プログラム(TU-ITP)等の多様な実践教育を実施するとともに、その教育効果を点検し、プログラムの改善を行う。(関連する中期計画 4-1-2-1)

[戦略性が高く意欲的な目標・計画 (◆)]

- ユニット1「乾燥地科学分野における国際的研究教育拠点の強化」: 本学の特色・強みである乾燥地科学研究拠点を「世界をリードする研究拠点」に発展させるため、国際的に優位性の高い研究等を推進する。(関連する中期計画 2-1-1-1、2-1-1-2)
- ユニット2「医工農連携による異分野研究プロジェクトの推進」: 地域イノベーションに貢献するため、大学が保有するキチン・キトサンのファイバー化技術等の知的資源や医療機器開発及びロボット開発研究等の研究成果を活用し、新製品の創出等に取り組む。(関連する中期計画 2-1-2-1)

評価結果

《概要》

第3期中期目標期間の教育研究の状況（4年目終了時）について、法人の特徴等を踏まえ評価を行った結果、鳥取大学の中期目標（大項目、中項目及び小項目）の達成状況の概要は、以下のとおりである。

＜判定結果の概要＞

中期目標（大項目）	判定	中期目標（小項目）判定の分布				
		【5】 特筆すべき実績を 上げている	【4】 優れた実績を 上げている	【3】 進捗して いる	【2】 十分に進 捗している とはいえない	【1】 進捗して いない
I 教育に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			3		
2 教育の実施体制等に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		
3 学生への支援に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			1		
4 入学者選抜に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			1		
II 研究に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある					
1 研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある		2	1		
2 研究実施体制等に関する目標	【4】 計画以上の進 捗状況にある		1			
III 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】 順調に進 んでいる					
	なし			2		
IV その他の目標	【3】 順調に進 んでいる					
1 グローバル化に関する目標	【3】 順調に進 んでいる			2		

※ 大項目「I 教育に関する目標」及び「II 研究に関する目標」においては、学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を反映している。

《本文》

I 教育に関する目標（大項目1）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、4項目が「順調に進んでいる」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目1-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-1-1	判定		判断理由
「知と実践の融合」のもと、その時代に必要な現代的教養と人間力を根底におく教育により、地域社会の課題解決や国際社会の理解を志向し、社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成に取り組む。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》 (特色ある点) ○ 医学部での学習成果の可視化 医学部医学科では、平成29年度以降の卒業者を対象にコンピテンシーと紐付けられた授業科目のGPA評価を行い、ディプロマ・ポリシー（DP）到達度を可視化し、分析して6つのパターン（学生タイプ）を見出すとともに、学生アンケートによるDPの自己評価結果やPCC-OSCE（臨床実習後OSCE）の結果をGPA評価と比較したパターン解析も行っている。その結果はレーダーチャートを使って全学生にフィードバックするとともに、学位伝達式において最優秀学生を表彰している。（中期計画1-1-1-3）		

小項目 1-1-2	判定		判断理由
<p>医学、保健系、工学、農学及び学際分野のミッションの再定義で明示した養成人材像を踏まえ、学士課程のディプロマ・ポリシーに基づき、学生の課題発見、問題解決やコミュニケーションの能力を養成する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(優れた点)</p> <p>○ 工学部でのものづくり教育</p> <p>工学部では、ものづくり教育実践センターを中心に、地域と連携した問題・課題解決型のPBL授業として「ものづくり実践プロジェクト」に取り組んでおり、空間活用のためのプロダクトデザインをテーマに、LEDライトを活用したテーブルや玩具等を開発している。なお、平成29年度には「ものづくり実践プロジェクト」の成果物として、ドット絵LEDパネルが、第59回鳥取県発明くふう展において鳥取県知事賞、鳥取県発明協会会長賞を受賞している。(中期計画1-1-2-1)</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 地域学部と農学部の再編</p> <p>学部等の強み・特色をさらに強化するため、地域学部を従来の4学科から1学科(地域学科)とし、地域学部の旧地域環境学科を農学部へ移設することで生物資源環境学科を生命環境農学科に再編する改組を平成29年度に実施している。(中期計画1-1-2-1)</p> <p>○ 農学部での実践型教育</p> <p>農学部では、海外実践型教育プログラムとして菌類資源科学(タイ)、国際乾燥地農学実習(メキシコ・タイ)を実施し、海外フィールド演習として国際獣医学インターンシップ演習(イギリス)を実施している。また、国内を対象とした実践教育として里地里山演習Ⅰ・Ⅱ、公衆・家畜衛生インターンシップ実習等に取り組んでいる。加えて、中国・四国地区国公立大学の農学系学部が連携して大学間連携フィールド演習を実施している。(中期計画1-1-2-1)</p>		

小項目 1-1-3	判定		判断理由
<p>医学、保健系、工学、農学及び学際分野のミッションの再定義で明示した養成人材像を踏まえ、大学院課程のディプロマ・ポリシーに基づき、豊かな学識、高度な専門的能力を養成する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p> <p>(特色ある点)</p> <p>○ 持続性社会創生科学研究科での実践教育 大学院持続性社会創生科学研究科では、地域学や工学の教育資源を活用し、地域づくりについて分野を超えて知識を身に付ける「地域マネジメントスタディズ」を設け、学外の地域リーダーから指導を受け、実地での聞き取り調査やフィールドワークにより課題解決や実践的教育に取り組んでいる。また、持続可能社会の創生に関する知識を広げるため、鳥取大学の強み及び特色である乾燥地開発と地域創生について体系的に身に付ける鳥取大学地域戦略プログラムを設け、乾燥地開発プログラム指定の科目を8単位修得した学生に修了認定証を授与している。(中期計画 1-1-3-1)</p> <p>○ 大学院研究科の改組 大学院研究科の強み・特色をさらに強化するため、鳥取キャンパスの地域学、工学、農学の修士課程又は博士前期課程を統合し、地域学専攻、工学専攻、農学専攻及び国際乾燥地科学専攻からなる持続性社会創生科学研究科に再編する改組を平成 29 年度に実施している。(中期計画 1-1-3-1)</p> <p>○ 共同獣医学研究科の設置 大学院共同獣医学研究科では、家畜衛生・公衆衛生スペシャリスト、One Health スペシャリスト及び難病治療・創薬スペシャリストを養成するため、農学部共同獣医学科や関連センターでの獣医学教育・研究実績を活かし、岐阜大学・鳥取大学大学院共同獣医学研究科共同獣医学専攻を令和元年度に設置している。(中期計画 1-1-3-1)</p>		

(2) 教育の実施体制等に関する目標 (中項目 1-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 1-2-1	判定		判断理由
大学教育の質を維持・向上し、学位水準を保証するため、教育の内部質保証を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 新型コロナウイルス感染症下の教育 新型コロナウイルス感染症による影響下においても、学生の学習機会を確保するため、オンライン授業 (ライブ配信、オンデマンド配信) と対面授業を実施し、授業間での学生の自宅からの移動時間を確保するよう、開始終了時間を調整するなどの対応をしている。また、語学については、学生が発音の練習をするため、科目ごとにオンライン授業用に講義室を確保している。		
小項目 1-2-2	判定		判断理由
学生にとって学びやすい環境を提供するため、学生の意見を取り入れて教育環境を充実する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 多要素認証システムの開発 学外から学内情報システムを利用する際に、情報セキュリティ対策と利便性を両立させるため、平成30年度にメールやLINE Notify等の多様な認証手段を持ち、毎回のコード入力が不要となる「多要素認証システム」を独自に開発し、学生及び教職員向けにサービスを提供している。(中期計画1-2-2-1)		

	<p>○ e-learning を活用した授業支援</p> <p>ICT 環境について、e-learning システムの Moodle による授業支援により、e-learning 登録科目数は平成 28 年度 3,972 件に対し、令和元年度は 7,616 件と急増しており、利用科目数でも平成 28 年度 321 件に対して 570 件と増加している。（中期計画 1-2-2-1）</p>
--	---

(3) 学生への支援に関する目標 (中項目 1-3)

<p>【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる</p> <p>(判断理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が 1 項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。</p>
--

小項目 1-3-1	判定	判断理由
<p>学生の入学前から卒業後までを通じた総合的な支援を実施する。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>
	<p>《特記事項》</p>	
	<p>該当なし</p>	

(4) 入学者選抜に関する目標 (中項目 1-4)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「進捗している」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 1-4-1	判定		判断理由
<p>「知」のみならず「実践」的マインドを有する入学者を受け入れ、本学の学修と経験を通じて、社会の中核となり得る教養豊かな人材を育成するため、受験生の能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価できる新たな入学者選抜に取り組む。</p>	<p>【3】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>
	<p>《特記事項》</p>		
	<p>該当なし</p>		

Ⅱ 研究に関する目標（大項目2）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標（中項目）2項目のうち、2項目が「計画以上の進捗状況にある」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（研究）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標（中項目2-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、2項目が「優れた実績を上げている」、1項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 2-1-1	判定		判断理由
乾燥地科学、菌類きのこ資源科学、染色体工学等において、国際的存在感をもつ学際的研究拠点を形成する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	《特記事項》		
	(特色ある点) ○ 染色体工学研究の推進 染色体工学研究センターでは、日本医療研究開発機構（AMED）の創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業に人工染色体技術を用いたヒト化マウス・ラットおよび多機能細胞による創薬支援（平成29年度から令和3年度）が中国地方で唯一採択されるとともに、ヒトの薬物代謝酵素の遺伝子群を導入した「ヒト型ラット」の作製に世界で初めて成功している。なお、その成果が認められ、センター教員が第3回日本医療研究開発大賞日本医療研究開発機構理事長賞を受賞している。（中期計画2-1-1-1） ○ 農学部での共同研究の推進 農学部では、東京海洋大学、メキシコ北西部生物学研究センターとの共同事業が地球規模課題対応国際科学技術協力		

	<p>プログラム (SATREPS) 「持続的食料生産のための乾燥地に適応した露地栽培結合型アクアポニックスの開発 (平成 26 年度から令和元年度)」に採択され、国際共同研究を実施している。乾燥地研究センターでは、限界地プロジェクトの成果の一部が科学技術振興機構 (JST) と国際協力機構 (JICA) との共同事業である SATREPS 「スーダンおよびサブサハラアフリカの乾燥・高温農業生態系において持続的にコムギを生産するための革新的な気候変動耐性技術の開発 (令和元年度から令和 5 年度)」に採択され、国際共同研究を実施している。また、農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センターでは、きのこ抽出物からの医薬リード化合物や安全な生物農薬の探索を目指して、染色体工学研究センター及び民間企業との共同研究を実施している。(中期計画 2-1-1-1、2-1-1-2)</p> <p>○ 国際共著論文の増加</p> <p>第 3 期中期目標期間 (平成 28 年度から令和 3 年度) において、戦略 1 「乾燥地科学分野における国際的研究教育拠点の強化」、戦略 2 「医工農連携による異分野研究プロジェクトの推進」及び戦略 3 「人口希薄化地域における地域創生を目指した実践型教育研究の新展開」を立てて、特色ある先端的研究を推進するとともに、世界の乾燥地域と人口減少や過疎化の進む地域を対象とした取組を推進し、学際的研究拠点等における国際共著論文数の第 3 期中期目標期間 4 年目までの件数は、154 件 (乾燥地科学 113 件、菌類きのこ資源科学 34 件、染色体工学 7 件) となり、第 2 期中期目標期間の 129 件より約 19%増加している。(中期計画 2-1-1-1)</p>
--	---

小項目 2-1-2	判定		判断理由
<p>大学の知的資源を活用し、創出された研究成果や活動成果等を広く地域社会へ還元する。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p>	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「「キチン・キトサン」実用化に向けた研究の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
<p>《特記事項》</p>			
<p>(優れた点)</p> <p>○ 「キチン・キトサン」実用化に向けた研究の推進 鳥取県の特産品であるカニの廃殻より製造した新素材「キチン・キトサン」のファイバー化技術等の素材技術に関して、「とっとり大学発・産学連携ファンド」を活用し、研究開発・製造販売をする大学発ベンチャー「マリンナノファイバー」を平成28年度に設立し、化粧品や雑貨類、フィルター用の原料として出荷し、実用化研究を進めている。その結果、高分子学会の広報委員会パブリシティ賞、安藤百福賞の発明発見奨励賞等の受賞、農業・食品産業技術総合研究機構の異分野融合発展研究や環境省のCO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業の採択、地域未来牽引企業への認定等に繋がっており、令和元年度には、ナノゼリー、マリンナノファイバージェル等、20品目を製品化している。(中期計画2-1-2-1)</p> <p>○ 組織再生工学研究の成果 組織再生工学研究プロジェクトでは、医学部の幹細胞研究に工学部の組織再生工学技術との連携による組織再生工学の技術を組み入れ、脂肪幹細胞から心臓系細胞シートで心臓病を、肝細胞化細胞シートで肝臓病を治療できる新技術の開発を行っている。研究成果として、平成30年度には国内特許出願5件、特許取得4件、外部資金獲得9件等、令和元年度には国内特許出願1件、特許取得1件、外部資金獲得5件等</p>			

	<p>の実績がある。なお、核酸医薬内包及びタンパク質被覆人工ウイルスキャプシドの創製に成功しており、日本化学会学術賞や高分子学会三菱ケミカル賞を受賞している。（中期計画 2-1-2-1）</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ 医工農連携による医療機器の開発</p> <p>医工農連携による医療機器等開発プロジェクトとして、医工農連携プロジェクトチームを立ち上げ、医工農の独自技術を融合させた医療機器等開発プロジェクト（立ち上げ型・先行型）や革新的な機器の製品化に取り組んでいる。主な成果として、鼻息検査に係る研究では、既存の鼻息鏡による測定を客観記録するため特許取得後、鳥取県産業技術センターとの共同研究、とっとり発医療機器開発支援事業を得て実施し、試作品を製作している。これらの取組の結果、令和元年度には、医療機器等の開発・製品化の合計件数が3件となっている。（中期計画 2-1-2-1）</p> <p>○ 獣医学での新世代のがん治療薬研究</p> <p>核酸医薬等を用いたがん遺伝子病態科学の確立を目指し、腫瘍溶解性がんウイルス療法やがん核酸療法（マイクロ RNA 等）により、獣医学における小～中動物を用いた新世代のがん治療薬の研究開発（評価系開発技術等）に取り組んでいる。平成 29 年度には、改変ウイルス構築に成功し、免疫賦活遺伝子搭載腫瘍溶解性ウイルスの開発・商業化に関する全世界における独占的ライセンス契約をアステラス製薬と締結している。平成 30 年度には、研究試薬・医薬の研究開発及び製造販売を目的として鳥取大学発バイオベンチャー「株式会社エボルブ・バイオセラピューティクス」を設立している。（中期計画 2-1-2-1）</p> <p>○ 地域価値創造研究教育機構の設置</p> <p>人口減少、少子・高齢化、産業空洞化等が進む地域の創生に貢献するため、平成 29 年度に地域価値創造研究教育機構を設置するとともに、リサーチ・アドミニストレーター（URA）2 名を配置している。それに伴い、従来行っていた地域課題に関する研究教育活動の支援制度を統合再編し、新たに地域価値創造研究教育推進プログラムを創設することで、地域参加型研究プロジェクト（調査型・実践型・発展</p>
--	---

	<p>型) 及び地域実践型教育活動 (地域連携授業・エクステンション&アウトリーチ事業) に取り組んでいる。地域参加型研究プロジェクトの未発掘地域資源であるローカル酵母の活用による地域産業・地域活性化プロジェクトでは、地域内でローカル酵母を発掘・開拓し、地ビール等の新たな特産品の開発等の成果を上げている。(中期計画 2-1-2-2)</p>	
<p>小項目 2-1-3</p>	<p>判定</p>	<p>判断理由</p>
<p>乾燥地科学分野における共同利用・共同研究拠点の機能を強化し、共同研究の国際化に取り組む。</p>	<p>【4】</p>	<p>中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている</p> <p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「乾燥地科学分野の共同利用拠点の機能強化」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
<p>《特記事項》</p>		
<p>(優れた点)</p> <p>○ 乾燥地科学分野の共同利用拠点の機能強化</p> <p>平成 29 年度概算要求・機能強化経費に共同利用・共同研究拠点である乾燥地研究センターの重点研究「砂漠化地域における地球温暖化への対応に関する研究 (乾燥地×温暖化プロジェクト) (平成 29 年度から令和 3 年度)」が採択され、①熱波・干ばつ等の将来気候解析、②砂漠化・乾燥地農業への影響評価、③温暖化適応・砂漠化対処に取り組んでいる。①では気温・降水量・植生生産力(NPP)・葉面積(LAI)の増加とモンゴルの植生変化や光合成量やCO2吸収力低下を明らかにし、②では降水量と干ばつ指数が生産量を駆動していることを明らかにし、③ではスーダン北部の生産地域では相対的に高温耐性より多収量品種導入が適する一方で、南東部の生産地域では現在の高温耐性品種でも現在の収量を維持できず、新たな品種改良が必要なことを明らかにしている。(中期計画 2-1-3-1)</p>		

	<p>(特色ある点)</p> <p>○ 乾燥地科学分野の国際共同研究</p> <p>国際共同研究を推進するため、海外研究者招聘型共同研究や海外拠点連携型国際共同研究を開始し、国内外の共同研究者が集まる共同研究発表会を毎年度開催するとともに、共同研究者が利用可能な乾燥地環境再現実験設備（デザートシミュレーター）等の施設・設備の整備に取り組んでいる。これらの取組の結果、令和元年度までの国際共同研究の合計件数が162件となり、目標値の20%増をすでに達成している。</p> <p>(中期計画 2-1-3-1)</p>
--	---

(2) 研究実施体制等に関する目標 (中項目 2-2)

【評価結果】 中期目標の達成に向けて計画以上の進捗状況にある

(判断理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「優れた実績を上げている」であることから、これらを総合的に判断した。

小項目 2-2-1	判定		判断理由
将来の研究コアとなる基盤的研究を学際的研究へスパイラルアップするとともに、次世代を担う若手研究者等を育成できる研究支援環境を構築する。	【4】	中期目標の達成に向けて進捗し、優れた実績を上げている	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p> <p>○ また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「とっとり創薬実証センターによる研究の推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。</p>
	≪特記事項≫		
	<p>(優れた点)</p> <p>○ とっとり創薬実証センターによる研究の推進</p> <p>染色体工学研究センターと鳥取県が共同提案したとっとり発医療イノベーション (創薬) 産学官連携研究開発実証拠点が文部科学省・第2次補正予算事業の地域科学技術実証拠点</p>		

	<p>整備事業に中国・四国地方で唯一採択され、平成 29 年度にはとっとり創薬実証センターが完成している。入所した複数の製薬会社が創薬研究を開始し、完全ヒト抗体産生動物を用いた抗体医薬品シーズの取得等の活動を行っており、種々の疾患に対する抗体医薬品シーズの取得等の成果が上がっている。（中期計画 2-2-1-1）</p> <p>（特色ある点）</p> <p>○ 研究支援体制の整備</p> <p>平成 28 年度に作成した産学・地域連携推進機構の将来構想に資する産学連携ビジョン及びアクションプランに基づき、平成 30 年度には生命機能研究支援センター及び産学連携推進機構を統合した研究推進機構を設置している。本機構は、研究戦略室、サステナブル・サイエンス研究センター、先進医療研究センター及び研究基盤センターで構成され、研究戦略室には統括 URA 教授、医療系 URA 准教授及び URA 助教を配置し、先進医療研究センターには、医療系 URA 特命准教授を配置している。（中期計画 2-2-1-1）</p> <p>○ 設備の共同利用支援</p> <p>鳥取大学を中核として鳥取県、県内高等教育機関及び公設試験場等の 8 機関が有機的に連携し、研究用設備の共同利用及び技術支援人材の交流を推進する「とっとりイノベーション・ファシリティ・ネットワーク（TIFNet）」において、参画機関訪問による意見交換、TIFLearning 開催等を行うなど、参画機関同士の交流や情報共有を促す活動に取り組んでいる。その結果、令和元年度には、TIFNet としての公開設備が 340 台になるなどの成果が上がっている。（中期計画 2-2-1-1）</p>
--	---

Ⅲ 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標(大項目3)

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

(判断理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

小項目 3-1-1	判定		判断理由
持続可能な地域の構築を目指し、地域社会の課題解決に向けて大学の資源を活用し、地域を志向した教育・研究を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
<<特記事項>> (特色ある点) ○ COC+事業の成果 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+事業)「事業協働地域が要請する人材の育成」の活動の一環として、大山乳業やローソンと連携し、学生に企業の新商品の企画、製作、デザイン、販売までを、社会人との協働作業の中で実体験させている。その結果、「白バラいちごあいす」と「とりりんのおいもシュー」が商品化され、中四国地方のローソン等で販売されている。(中期計画 3-1-1-1)			
小項目 3-1-2	判定		判断理由
地域創生に向けた取組として、自治体・地域住民との連携・協働により、地域に根ざした人材育成を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
<<特記事項>> (特色ある点) ○ 行政人材の育成への貢献 行政人材等の育成を図るため、鳥取県職員人材開発センターとの協働により、自治体職員、地域実践者、学生等を対象			

	<p>とした地域の課題解決力向上講座を実施している。また、鳥取県からの委託により市町村の保育リーダーの専門性及び指導力向上を目的とした「鳥取県保育所・幼稚園・認定こども園リーダー養成研修」や現職教員を対象としたLD等専門教員研修等を実施している。（中期計画 3-1-2-1）</p> <p>○ コミュニティ・デザイン・ラボの設置</p> <p>地域と大学、学生と教職員、学生同士の出会いと協働による地域価値創造を促進するとともに、課題抽出過程から地域住民の実質的な参画を促す活動拠点としてコミュニティ・デザイン・ラボ（CDL）を設置し、地域と連携した教育活動、地域参加型の研究活動、様々なイベント等で活用している。また、地域社会や住民に教員の地域課題に関する研究教育活動を発信するため、平成30年度からFM鳥取と連携したラジオ番組「鳥取大学 CoRE ラジオ」を放送している。（中期計画 3-1-2-2）</p>
--	--

IV その他の目標（大項目 4）

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「その他の目標」に係る中期目標（中項目）が1項目であり、当該中項目が「順調に進んでいる」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 中期目標の達成状況

（1） グローバル化に関する目標（中項目 4-1）

【評価結果】 中期目標の達成に向けて順調に進んでいる

（判断理由）「グローバル化に関する目標」に係る中期目標（小項目）2項目のうち、2項目が「進捗している」であり、これらを総合的に判断した。

小項目 4-1-1	判定		判断理由
持続社会創生に貢献できるグローバル人材育成の拠点として、世界と地域をつなぐハブ機能を強化し、大学教育のグローバル化を推進する。	【3】	中期目標の達成に向けて進捗している	○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。
	≪特記事項≫ （特色ある点） ○ グローバル人材の育成 グローバルマインド醸成のための教育システムの構築に向けて、「鳥取大学グローバル人材育成教育（TOUGH）プログラム（グローバル基礎力養成コース・グローバル強化コース）」を実施している。各コースとも一定の条件を満たせば認定証が発行される制度を設けており、令和元年度にグローバル基礎力養成コースの修了者2名に対して認定証を授与している。（中期計画 4-1-1-1） ○ 外国人学生に対する実践教育 地域における外国人学生の実践活動や教育プログラムの実施として、実践教育プログラムの「ゲートウェイ・ジャパン・スタディ・ツアー」では、鳥取県を中心とした地域の様々な課題を題材として、地域と共に実践活動を通して持続可能な社会の構築を学ぶ機会を提供し、「グローバル化社会		

	<p>における多文化共生のための協働力育成プログラム」では、文化・環境・産業に関わる施設の見学や体験、ホームステイ、小学校での交流会等の地域における多様な資源に触れるとともに、課題を考えて人と交流する機会を提供している。 (中期計画 4-1-1-3)</p>	
小項目 4-1-2	<p>判定</p>	
<p>開発途上国、新興国等をフィールドにした実践教育を拡充し、高い実践力と逆境力、さらに国際通用性を身に付けたグローバル人材育成を推進する。</p>	【3】	<p>中期目標の達成に向けて進捗している</p>
	<p>判断理由</p>	
	<p>○ 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ中期計画の実施により、小項目の達成が見込まれる。</p>	
<p>《特記事項》</p>		
<p>(特色ある点)</p> <p>○ メキシコでの海外実践教育 メキシコ海外実践教育プログラムでは、南バハカリフォルニア自治大学(メキシコ)やメキシコ北西部生物学研究センター等において、学生は英語やスペイン語を使いながら、社会文化や農業自然に関する講義を受講し、水資源管理や地域資源に関するフィールドワークを行っている。(中期計画 4-1-2-1)</p> <p>○ 海外の乾燥地の研究機関との連携 国連大学国際修士プログラム(MSプログラム)を活用した、大学院修士課程が対象の「鳥取大学インターナショナルトレーニングプログラム(TU-ITP)」では、海外の乾燥地の研究機関でのコースワークとフィールドリサーチからなる長期派遣プログラムを実施している。(中期計画 4-1-2-1)</p>		

《判定結果一覧表》

送付前に削除:鳥取大学加算あり

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値
中期目標(中項目)		
中期目標(小項目)		
中期計画		
大項目1 教育に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.05 うち現況分析結果加算点 0.05
中項目1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.00
小項目1-1-1 「知と実践の融合」のもと、その時代に必要な現代的教養と人間力を根底におく教育により、地域社会の課題解決や国際社会の理解を志向し、社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成に取り組む。	【3】	進捗している 2.00
中期計画1-1-1-1 全学の教学マネジメントシステムとして組織的かつ継続的な教育改善に取り組むため、全学、学部及び研究科のカリキュラム・ポリシーに基づいた教育プログラムの点検・改善を3年ごとに行う。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-2 全学及び各学部のディプロマ・ポリシーに明記した能力を身に付けさせるため、全学共通科目及び専門科目において、シラバスと連動した時間外学習を促す組織的な取組を実施するとともに、卒業に必要な単位数等について、1年間に履修科目として登録することができる上限を設定するなど、各学部で単位の過剰登録を防ぐための取組を強化する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-1-1-3 学部・研究科における教育効果及び学生が身につけた能力等を検証するため、学生の成績情報等を基に学習成果を可視化するとともに、卒業生(修了生)及び就職先企業に対するアンケートを3年ごとに実施し、その結果を教育プログラムの改善に活用する。	【2】	中期計画を実施している
小項目1-1-2 医学、保健系、工学、農学及び学際分野のミッションの再定義で明示した養成人材像を踏まえ、学士課程のディプロマ・ポリシーに基づき、学生の課題発見、問題解決やコミュニケーションの能力を養成する。	【3】	進捗している 3.00
中期計画1-1-2-1(★) 各学部のカリキュラム・ポリシーのもと、専門教育と全学体制による教養教育を実施するとともに、フィールドワーク、ヒューマンコミュニケーション、ものづくり実践、海外フィールド演習等の各学部の特色ある教育を中心として、学生が自ら学ぶ実践教育に取り組む。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
小項目1-1-3 医学、保健系、工学、農学及び学際分野のミッションの再定義で明示した養成人材像を踏まえ、大学院課程のディプロマ・ポリシーに基づき、豊かな学識、高度な専門的能力を養成する。	【3】	進捗している 3.00
中期計画1-1-3-1(★) 各研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、高度な専門教育に加えて、研究者及び高度専門職業人として必要な教養教育を実施するとともに、地域創造、臨床研究、過疎地域、ナシ新品種の育成、きのこ資源の利活用、乾燥地農学等の各研究科の特色ある研究に基づき、理論と実践を融合した教育に取り組む。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている
中項目1-2 教育の実施体制等に関する目標	【3】	順調に進んでいる 3.00
小項目1-2-1 大学教育の質を維持・向上し、学位水準を保証するため、教育の内部質保証を推進する。	【3】	進捗している 2.00
中期計画1-2-1-1 全学的な教育の内部質保証システムの体制として、教育関連のデータ収集・分析を行うIR活動、学生、教職員や学外関係者からの継続的な意見聴取の取組等の機能を強化する。	【2】	中期計画を実施している
中期計画1-2-1-2 組織として教育の質の改善・向上を図るため、各学部・研究科における教育プログラムの質保証として、様々な形態のFD活動を展開し、教授方法や授業改善に結びつけるよう取り組む。	【2】	中期計画を実施している

鳥取大学

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
小項目1-2-2	学生にとって学びやすい環境を提供するため、学生の意見を取り入れて教育環境を充実する。	【3】	進捗している	3.00
中期計画1-2-2-1	学生の意見を把握するため、隔年で学生生活実態調査を実施し、その結果をe-Learning等のICT環境、図書館、自主的学習環境等の改善及び充実に活用する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中項目1-3	学生への支援に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-3-1	学生の入学前から卒業後までを通じた総合的な支援を実施する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-3-1-1	入学センター、教育センター、学生支援センター、キャリアセンター及び各学部・研究科の教職員で構成された既存委員会の更なる活用、関係部署の横断的な取組等を行い、学生の入学前から卒業後までを通じた総合的な支援が行える全学的なエンrollment・マネジメント体制を構築する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画1-3-1-2	障害のある学生等の多様な学生への支援、経済支援や就職支援等の体制を充実させるため、学生支援センター及びキャリアセンターの機能を強化する。	【2】	中期計画を実施している	
中項目1-4	入学者選抜に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目1-4-1	「知」のみならず「実践」的のマインドを有する入学者を受け入れ、本学の学修と経験を通じて、社会の中核となり得る教養豊かな人材を育成するため、受験生の能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価できる新たな入学者選抜に取り組む。	【3】	進捗している	2.00
中期計画1-4-1-1	受験生の能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価するため、アドミッション・ポリシーの改訂、選抜方法や評価方法の見直し・具体化を行い、新たなアドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜を実施する。	【2】	中期計画を実施している	
大項目2	研究に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある	3.97 うち現況分析結果加算点 0.14
中項目2-1	研究水準及び研究の成果等に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある	3.67
小項目2-1-1	乾燥地科学、菌類きのこ資源科学、染色体工学等において、国際的存在感をもつ学際的研究拠点を形成する。	【3】	進捗している	2.50
中期計画2-1-1-1(◆)	大学の特色・強みである乾燥地科学、菌類きのこ資源科学、染色体工学等の先端的研究や複数の研究者が取り組む基盤的研究において、国際共著論文の件数を第2期中期目標期間より10%以上増やすことを目指す。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
中期計画2-1-1-2(◆)	国際的に優位性の高い研究拠点において、現有の研究系センターや学部等の横断型プロジェクトを組織するなどの有機的連携により、黄砂・環境修復プロジェクト等の乾燥地・発展途上国等に関する研究、健康で安全な社会のための菌類きのこ資源の活用を推進する研究等に取り組む。	【2】	中期計画を実施している	
小項目2-1-2	大学の知的資源を活用し、創出された研究成果や活動成果等を広く地域社会へ還元する。	【4】	優れた実績を上げている	3.00
中期計画2-1-2-1(◆)	地域イノベーションに貢献するため、大学が保有するキチン・キトサンファイバー化技術等の知的資源や医療機器開発及びロボット開発研究等の研究成果を活用し、新製品の創出等に取り組む。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	

中期目標(大項目)		判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)				
中期目標(小項目)				
中期計画				
	中期計画2-1-2-2 地域から世界各地に及ぶ研究フィールドにおいて、山陰の地域課題研究を通じた人口希薄化社会の新たな価値発見・創造のための教育研究プログラム、附属学校・地域と連携した子供の発達支援と教師の成長プロセスに関する学際研究・実践プロジェクト等の実践的研究を行い、その成果を地域社会に還元する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	小項目2-1-3 乾燥地科学分野における共同利用・共同研究拠点の機能を強化し、共同研究の国際化に取り組む。	【4】	優れた実績を上げている	3.00
	中期計画2-1-3-1 乾燥地科学分野における共同利用・共同研究拠点として、乾燥地科学拠点における研究・教育・ネットワーク等の機能を強化することにより、国際的共同研究の件数を第2期中期目標期間より20%以上増やすことを目指す。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	中項目2-2 研究実施体制等に関する目標	【4】	計画以上の進捗状況にある	4.00
	小項目2-2-1 将来の研究コアとなる基盤的研究を学際的研究へスパイラルアップするとともに、次世代を担う若手研究者等を育成できる研究支援環境を構築する。	【4】	優れた実績を上げている	2.50
	中期計画2-2-1-1 新しい研究コアとなり得る基盤的研究を大型プロジェクトに発展させるため、研究戦略を担う新たな組織を設置するなど研究開発マネジメント体制を平成29年度までに構築するとともに、設備の共同利用支援、URAの配置、国内外の研究機関との連携等による学際的な研究環境を整備する。	【3】	中期計画を実施し、優れた実績を上げている	
	中期計画2-2-1-2 新たな強み研究を生み出すため、将来有望な研究者等の育成システムとして、若手研究者を対象とした研究費の確保や研究環境の整備等に取り組む。	【2】	中期計画を実施している	
	大項目3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
		なし	—	—
	小項目3-1-1 持続可能な地域の構築を目指し、地域社会の課題解決に向けて大学の資源を活用し、地域を志向した教育・研究を推進する。	【3】	進捗している	2.00
	中期計画3-1-1-1 学生の地域に関する知識や関心を高め、スキルを身につけるための地域志向型人間力教育プログラムの点検・改善を行う。 また、持続可能な地域を構築していくための施策立案や実施能力が身につけられる教育方法を構築する。	【2】	中期計画を実施している	
	中期計画3-1-1-2(★) 地方自治体、地元企業等と連携した共同研究(地域志向教育研究)等により、地域の人口減少・少子高齢化等に対する課題を抽出し、課題解決策や課題解決支援手法の開発を行う。	【2】	中期計画を実施している	
	小項目3-1-2 地域創生に向けた取組として、自治体・地域住民との連携・協働により、地域に根ざした人材育成を推進する。	【3】	進捗している	2.00
	中期計画3-1-2-1 地域社会や住民のニーズに対応した公開講座、出前講座や講演会等を開催するとともに、地元企業、官公庁等と連携した行政人材等の育成講座、鳥取大学振興協会と連携した企業人材育成講座等の実践的リカレント教育プログラムを実施する。	【2】	中期計画を実施している	
	中期計画3-1-2-2(★) 地域におけるイノベーションの創出や社会人の学び直しに資するため、産学協同による学生や社会人の人材育成として、過疎・高齢化等の課題抽出過程から地域住民の実質的な参画を促す住民参加型地域課題研究に取り組む。	【2】	中期計画を実施している	

中期目標(大項目)	判定	下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値	
中期目標(中項目)			
中期目標(小項目)			
中期計画			
大項目4 その他の目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
中項目4-1 グローバル化に関する目標	【3】	順調に進んでいる	3.00
小項目4-1-1 持続社会創生に貢献できるグローバル人材育成の拠点として、世界と地域をつなぐハブ機能を強化し、大学教育のグローバル化を推進する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画4-1-1-1(★) 持続社会創生に貢献できるグローバル人材を育成するため、教育システムの国際通用性の向上、外国語による授業の増加、多様なグローバル資質・背景を持つ教員の増加等により、全学的なグローバル教育体制を整備する。また、これらを情報発信することにより、外国人留学生の受入を増やすとともに、日本人学生の海外への留学を促す取組を行う。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画4-1-1-2 キャンパスのグローバル化・多様化を推進するため、海外からの留学希望者に対する外国語による情報発信、入試方法・入学手続きの改善を行うとともに、留学手続きの簡素化・多言語化、留学生に対する日本語教育の実施、宿舍・生活支援等の受入及び支援体制を強化する。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画4-1-1-3(★) 外国人学生に対して地域の多様な課題をテーマとした実践活動及び地域と共に学ぶ教育プログラムを実施するとともに、地域住民に対して語学教育、異文化理解教育及び海外安全教育を行う。	【2】	中期計画を実施している	
小項目4-1-2 開発途上国、新興国等をフィールドにした実践教育を拡充し、高い実践力と逆境力、さらに国際通用性を身に付けたグローバル人材育成を推進する。	【3】	進捗している	2.00
中期計画4-1-2-1(★) 世界の乾燥地問題の解決において貢献できるグローバル人材を育成するため、国際乾燥地研究教育機構の国際共同研究の枠組みや本学の海外教育研究拠点を活用し、メキシコ海外実践教育プログラム、鳥取大学インターナショナル・トレーニング・プログラム(TU-ITP)等の多様な実践教育を実施するとともに、その教育効果を点検し、プログラムの改善を行う。	【2】	中期計画を実施している	
中期計画4-1-2-2 学生、教職員の海外渡航に際しての安全管理(危機予防と対応)を強化するため、多様な国・地域、渡航形態に対応した危機管理シミュレーションを取り入れた海外安全マネジメント教育・研修を徹底する。	【2】	中期計画を実施している	

- ※ 中期計画に表示されている記号が示す内容は、それぞれ以下のとおり。
 (★): 「個性の伸長に向けた取組」に特に関連する中期計画(「法人の特徴」参照)
 (◆): 文部科学省国立大学法人評価委員会に承認された「戦略的かつ意欲的な目標・計画」
 (*): 新型コロナウイルス感染症による影響を特に考慮して分析・判定した中期計画

※ 「下位の中期目標・中期計画における各判定の平均値」のうち、大項目「教育」「研究」の数値については、中項目の判定に使用した数値をそのまま大項目ごとに平均して算出し、その上で学部・研究科等の現況分析結果による加算・減算を行っている。

【教育】 達成状況評価

現況分析: 「教育」

$$\left(\text{当該法人における大項目「教育に関する目標」の中項目の平均値} \right) + \left\{ \left(\text{当該法人における(I 教育活動の状況)、(II 教育成果の状況)の全判定結果の平均値} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

【研究】 達成状況評価

現況分析: 「研究」

$$\left(\text{当該法人における大項目「研究に関する目標」の中項目の平均値} \right) + \left\{ \left(\text{当該法人における(I 研究活動の状況)、(II 研究成果の状況)の全判定結果の平均値} \right) - 2^{\text{注1}} \right\} \times \text{係数 } 0.5^{\text{注2}}$$

注1 現況分析は4段階判定となっており、【2】判定(相応の質にある)が基準となる判定のため、現況分析の教育または研究の全判定結果の平均値が2を上回る場合は加算、下回る場合は減算となる。

注2 現況分析結果の加算・減算に当たっては、達成状況の評価結果であることを考慮し、係数「0.5」を設定する。なお、加算・減算後の数値は小数点第3位を切り捨て処理しているため、現況分析結果加算点と教育または研究に関する大項目における判定の平均値の合算値が一致しないことがある。